

主 催 者 挨 拶

竹下 亘 地球環境行動会議 (GEA) 会長

2020年12月14日 開会式

皆さん、おはようございます。声が壊れておりまして、お聞きづらい点があること、お許しをいただきたいと思えます。

本日は、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎまして、そして菅内閣総理大臣をはじめ、閣僚の皆さん方にも御参加を賜り、このGEAの国際会議が開催されますこと、我々にとりまして大変名誉であると同時に、その責任の重さを改めて痛感をいたしておるところでございます。

特に、今年のこの国際会議は、新型ウイルス、コロナ、このコロナの影響というものを我々も深刻に受け止めまして、コロナ対策に万全を期して開催をしなければならないということで、参加者も申し訳ありませんが絞らせていただきましたし、会場等々、あるいは3密を避ける、さらにはソーシャルディスタンスをとる等々、皆さん方に御不便をお掛けすることも多々あると思えますけれども、ぜひ御容赦をお願い申し上げる次第でございます。

さて、地球環境を巡りまして、我々、日々変化を実感しているというのがここ数年の実体験ではないかなと、こう思うところでございます。何せ、暑いところはより暑く、寒いところはより寒く、様々な変化が大きくこの地球を覆ってきているということを日々、文字通り実感をしている状況にあります。そういう中であって私たちは、どうやってこの地球を守り抜いていくかと、今を生きる我々だけではなくて、子供たち、孫たち、あるいは100年後200年後の地球人たちのために、今を生きる我々が何をしなければならないのかと、改めて見つめ直さなければならない時期を迎えていると、このようにも考えているところでございます。

今、世界は様々なところで対立の様相を呈しております。しかし、私たちがやらなければならないことは、対決や対立や分裂ではありません。しっかりと議論をし、しっかりと対策を立てていくことであります。地球を見回してみますと、例えば自由とか民主主義とか博愛とか、そういった旗を掲げて、危険な地域、あるいは苦しい地域でも出かけてゆく人々、国々があります。先般、アフガニスタンで犠牲になられた医師の中村哲さんも、まさにそういう一人であります。私は、予感がいたしますのは、これから地球環境という旗を掲げて、厳しい地球のどこにでも出かけてゆく人たち、出かけてゆく国々が必ず活躍をする時代がやってくると、このようにも考えているところでございます。しかし、それぞれの地域には歴史があり、文化があります。地球環境という旗だけで全てが通用するものではないのではないか。私は多分、文化という旗と地球環境の維持という旗、この二つを立てて活躍する人たちが、これから地球を守る仕事をしっかりとやってくれるものと確信をしておる一人でございます。

今年もこうやって国際会議を開催することができるようになりました。世界の英知、世界の碩学の皆さん方にお集まりをいただき、今日、明日の2日間、徹底的に議論をしていただきまして、世界に向けて宣言を発出させていただき予定にいたしております。我々が汗をかくことが、未来の地球のほんのわずかでも一助になればと思いを込めて、今年もこの国際会議を開催させていただきました。皆さん方にしっかりと議論をしていただき、しっかりとした足跡を残していただきますことを心から祈念をし、そして、御参集をいただいた全ての皆さんに心からの感謝の思いを込めまして、冒頭の会長としての御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

宇都隆史 外務副大臣

2020年12月14日 昼食会

司会の方から御案内いただきましたが、茂木外務大臣が現在アフリカに出張中ですので、代理の副大臣の宇都隆史でございます。

さて、GEAは、地球環境問題の解決と持続可能な開発に多大な貢献をされてきており、この国際会議は、その活動の中でも最も重要で歴史のあるものでございます。本日この場で挨拶させていただく機会を頂きまして、誠に光栄に存じます。

まず、本年は新型コロナウイルス感染症という未曾有の挑戦を受けながらも、本日午前中には、天皇皇后両陛下の御臨席および菅総理の御出席の下、GEA国際会議2020の開会式が対面形式で無事開催されましたことを心からお祝い申し上げます。

今回の会議の「環境と経済の統合～環境と成長の好循環を目指して～」というテーマは、菅総理が成長戦略の柱に、経済と環境の好循環を掲げていることと軌を一にしているものでありまして、時宜を得たものだと思っております。

本日の菅総理の御祝辞の中にもありましたが、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルの実現を菅内閣は目指すことを宣言しておりまして、気候変動対策をはじめとする地球規模課題への対策は待ったなしでございます。

私は鹿児島県出身でございますが、台風の上陸数は、1951年から本年までの半世紀で41回に上り、2位の高知県の26をはるかに上回っております。台風を無くすことはできませんが、防災・減災の取り組みを進めつつ、またパリ協定などを通じて、日本だけではなく国際社会が一丸となって温暖化対策を進め、海水温の上昇等を抑えることができますれば、将来、台風や豪雨被害を軽減できるかもしれません。

自然豊かな日本の国土、また、世界を将来世代に引き継ぐことができるよう、外務副大臣としても、我が国1か国では解決できない気候変動問題をはじめとする地球規模課題に対して全力で取り組んでまいりたいと思っております。

最後ではございますが、今回のGEA国際会議の開催実現に向けて多大な準備をされてきた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、会議の成功を御祈念申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

宗清皇一 経済産業大臣政務官

2020年12月14日 昼食会

ただいま御紹介をいただきました経済産業省の政務官の宗清皇一でございます。私からは、経済産業省を代表して、一言御挨拶を申し上げます。

まず初めに、地球環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けたGEAの長年の御貢献に心から敬意を表します。

先の国会における菅総理の所信表明演説において、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」との方針が表明をされました。

気候変動の問題といたしますのは、今や人類共通の喫緊の課題であります。世界でも多くの国がカーボンニュートラルの目標を掲げて動き出しております。我が国は成長戦略としてカーボンニュートラルに挑戦をし、この危機をイノベーションの創出を通じたビジネスチャンスの拡大により乗り越えることを目指します。

カーボンニュートラルというのは、もちろん言うまでもございませんが、簡単なものではございません。日本の総力を挙げて取り組む必要があります。高い目標、そしてビジョンを掲げ、産学官が本気で取り組まなければなりません。

このため、カーボンニュートラルを目指す上で不可欠な水素、蓄電池、洋上風力、カーボンリサイクルなどの分野において、具体的な目標年限やターゲット、そして規制や標準化などの制度整備、社会実装を進めるための支援策などを盛り込んだ実行計画を今月末をめどに取りまとめる予定でございます。

産業界の旗振り役であります経済産業省といたしまして、あらゆるリソースを最大限投入して、長期間にわたる支援策を通じて、経済と環境の好循環を作り出していきたいと考えております。

本年のGEA会議2020は「環境と経済の統合～環境と成長の好循環を目指して～」、これをテーマに国内外から専門家をお招きして議論が行われ、まさに時宜に沿った会議となっております。今後の世界全体の持続可能な発展につながる機会となることを大きく期待をしているところでございます。

御挨拶の最後になりますけれども、本日の会合の御成功、そして出席者の皆様方のますますの御活躍、そして御健勝を心から祈念を申し上げまして、簡単でございますけれども、御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

中川俊男

地球環境行動会議 (GEA) 顧問、日本医師会会長

2020年12月14日 昼食会

日本医師会会長の中川俊男です。御挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、現在もお全世界で人々の命と健康、社会生活、経済に深刻な影響を及ぼしています。

今回の流行は我が国においても、人と人の距離を保つ、マスク着用、手指衛生の徹底をはじめ、三つの密の回避、新しい生活様式などと呼ばれる感染対策を実施した生活を求められ、感染対策、経済対策、国民の不安の払拭を同時に図るという難題に立ち向かう一方で、図らずもこれまでの日常生活や働き方、価値観と深く向き合うきっかけともなっています。

COVID-19に対して、日本医師会では、同感染症はもちろんのこと、他の疾病等に対応する医療提供体制を維持するため、都道府県医師会、都市区医師会の協力の下、必要な体制整備を図ってまいりました。さらに、地域の医師会とウェブ会議を定期的に行い、地域の医療現場における問題点を把握し、国に対して必要な要請を行ってきました。

現在、COVID-19診療の有無にかかわらず、医師、看護師等の医療従事者の心身の疲弊もピークに達し、激務のため医療従事者が最前線から離脱する恐れも現実化しています。医療機関や施設では、感染対策にも細心の注意を払っていますが、誰もが感染している可能性がある現状で、感染対策には限界もあります。

新型コロナの感染者の増加は、重症患者の増加につながります。これ以上感染者が急増すれば、医療提供は今以上に厳しい状況に陥ります。これらに対する処遇面や人材確保などの国の支援が求められますが、医療従事者にとって今何より一番大切な支援は、感染者を増やさないことです。

また、我々医療の専門家の立場としては、国民の命と健康を守ることが第一であり、徹底した感染防止対策が、結果的には一番の経済対策になるものと考えています。

日本医師会では、記者会見やホームページなどを通じて、国民の皆様にご冷静かつ正しい判断と行動をしていただけるよう、情報発信を継続的に行っていきます。

最近の記者会見では、まだ解明されていない未知な部分が多いことを踏まえ、理解することが重要であること、これまで大部分の国民の皆様が感染防止対策をとってきたこと、その結果、季節性インフルエンザが激減したにもかかわらず、新型コロナウイルスが現在のような状況にあることは、言い換えれば、新型コロナウイルスの感染力の強さは驚異的であり、仮に以前の生活を送っていたら、とてもこの程度では済まないとみるべきであることなどをお伝えし、基本的な感染防止対策の重要性を訴えてまいりました。

さらに、これまで通院されていた方、生活様式が大きく変化し不調を来した方、予防接種や健康診断を受ける方が、感染リスクを恐れて受診を控えたり先延ばしするといった深刻な状況が続いていることから、患者さんが安心して受診できるよう、感染防止対策を徹底している医療機関に掲示するための、みんなで安心マークを8月7日より発行して、今1万8,000に及んでいます。

これから本格的な冬、そして年末年始の時期を迎えますが、現在、日常診療や予防接種、検診の体

制を確保しつつ、発熱患者に対する相談診療体制整備について、全国の多くの医療機関に御協力をいただいているところです。

また、ワクチンについては、その効果を期待しているところであります。日本での接種開始は来春の見通しとなっていますが、接種体制の構築が今後の課題となります。

COVID-19は完全には“終息”しないともいわれ、たとえ一時的に“収束”したとしても、リモートワークの定着など、完全に元のライフスタイルに戻ることはないと思われまます。COVID-19に伴う様々な影響により、将来の疾病構造の変化も予測されます。今後はその変化を注視し、これまでとは異なるアプローチからの医療の取り組みも必要となると考えています。

地域の医療提供体制を維持し、国民の命と健康を守るため、日本医師会はこれからも尽力してまいります。よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

高橋ひなこ 文部科学副大臣

2020年12月15日 昼食会

皆さん、こんにちは。文部科学省副大臣をしております高橋ひなこと申します。どうぞお料理お進めいただきながら、お耳だけお貸しくださいますようお願い申し上げます。一言御挨拶をさせていただきます。

まず初めに、今回の会議に御参加くださいました地球環境問題に取り組まれている国内外の皆様、会議の開催に御尽力されました竹下亘会長、御出席の若松謙維副会長、GEA実行委員会、事務局の皆様にご心から敬意を表します。

地球環境問題は、我が国においても、今年10月に温室効果ガス削減の新たな目標として、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指す方針が菅総理大臣から示され、衆参両院でも「気候非常事態宣言」が採択されるなど、新たな局面を迎えつつあります。

今回のGEA国際会議2020においては「環境と経済の統合～環境と成長の好循環を目指して～」をテーマに、脱炭素化に向けたイノベーションの創出と活性化を促し、パリ協定において合意された温室効果ガス削減目標達成のための対策強化に向けた議論が行われており、非常に時宜を得たものと考えております。

今回の会議で論議されたように、パリ協定に定められた温室効果ガス削減目標の達成と、持続可能な開発目標、SDGsの達成に向けては、国際協議の下、学术界、産業界をはじめとする各界が一体となって気候変動に取り組むことが重要と考えています。

昨今、世界各地で豪雨や熱波などの極端な気象現象が発生しており、こうした極端現象が地球温暖化によって激甚化、頻発化することが懸念されております。このような状況の中、科学技術の担う役割はますます重要になってきていると考えます。

文部科学省は、国内外の動きや、今回の国際会議での御示唆を踏まえ、地球温暖化への適応や緩和に必要な気候変動予測研究、観測技術開発、革新的エネルギー技術に関する研究開発などに取り組み、引き続き、持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

結びに、人類が持続可能な未来を実現するため、本会議が今後ますます発展していくことを祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

岩井茂樹 国土交通副大臣

2020年12月15日 昼食会

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました国土交通副大臣の岩井茂樹でございます。GEA国際会議2020、この和やかな昼食会の場をお借りいたしまして、一言御挨拶をさせていただきます。

GEA国際会議2020のため、国内外からお集まりの皆様にご心から歓迎をいたします。また、準備に当たられました地球環境行動会議の皆様をはじめ、関係者の方々には心から感謝を申し上げます。

近年、自然災害が頻発化・激甚化するなど、気候変動が社会経済に及ぼす影響は大変大きいものがございます。こうした状況を踏まえると、地球温暖化対策は待ったなしと考えます。菅内閣総理大臣が表明をされた「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、我が国全体で温暖化対策に戦略的に取り組む必要があると考えております。

国土交通省においては、我が国の二酸化炭素排出量の約5割を占める運輸、業務・家庭部門の脱炭素化に向けて、電気自動車等の次世代自動車の普及、公共交通の利用促進や物流の効率化、住宅、建築物の省エネ化など、関係省庁と連携をして、より一層推進をしております。

また、港湾や下水道等の社会インフラを活用し、洋上風力やバイオマス等の再生可能エネルギー、さらには水素等の次世代エネルギーの利用拡大等に貢献できるよう取り組んでまいります。

こうした地球温暖化の緩和策に加え、気候変動への適応策にも力を入れていく必要がございます。自然災害から国民の命と暮らしを守る大きな使命を担う国土交通省においては、本年7月に「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」を公表いたしました。流域全体を俯瞰し、あらゆる関係者が協働して、ハード、ソフトの治水対策に取り組む流域治水への転換など、防災・減災が主流となる安全安心な社会の実現にしっかりと取り組んでまいります。

最後に、GEA国際会議2020において、国内外の地球環境問題の専門家の皆様の活発な議論を経て、その成果が地球の持続可能な未来に大いに貢献をすることを期待申し上げますとともに、1日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様の御健勝を心からお祈りを申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

熊野正士 農林水産大臣政務官

2020年12月15日 昼食会

農林水産大臣政務官の熊野正士でございます。御出席の皆様を心から歓迎いたしますとともに、この場をお借りいたしまして、GEA国際会議2020の開催に当たり、竹下会長をはじめ、関係者の皆様の御尽力に心から敬意を表したいと思います。

農林水産業は、食品産業と共に国民に食料を安定的に供給し、地域の経済やコミュニティーを支え、その営みを通じて国土の保全などの役割を果たしている国の基であります。農林水産業を発展させるとともに、日本の原風景である美しく豊かな農山漁村を守っていくことが重要であると考えております。

一方、我が国の食料、農林水産業は、自然災害や気候変動に伴う影響、また生産者の減少等による生産基盤の脆弱化などの課題に直面しており、農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務となっております。

また、SDGsや環境の重要性が国内外で高まる中、このことが国産品への評価向上にもつながるものと考えております。2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、我が国の食料、農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるための新たな戦略として、「みどりの食料システム戦略」の検討を進めているところです。

本戦略では、我が国の食料の安定供給、農林水産業の持続的な発展と地球環境の両立を図り、雇用の拡大、地域の所得向上、豊かな食生活の実現を目指すこととしており、まさにGEAの目指す環境と成長の好循環と合致するものとして、策定・実践してまいり所存です。

最後になりましたけれども、本日お集まりの皆様方のますますの御健勝と御発展、そして持続可能で美しい地球を守っていくため、本会議が実りあるものとなることを御祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきますと存じます。ありがとうございました。